

＜お宝ガーデン・お宝農園（城東区民農園）＞

- お宝ガーデン（清掃リサイクル課の生ごみ堆肥植物育成区画）での草花栽培は、今年は連日の猛暑で水やりが大変でした。6/10に植えたサルビア・マリーゴールドは元気に育ちましたが、ヒマワリは枯れてしまいました。11/11（水）に秋冬物の草花に植え替えます。
- お宝農園のキュウリ、ミニトマトは収穫を終え、ピーマン、ナス、大根、ブロッコリーなどを栽培中です。7/29にみどり館で予定した夏野菜のプチ収穫祭は感染症予防を考慮し中止にしました。
- 江東区ゆかりの江戸・東京野菜“亀戸大根”の種をご希望の方は小林までご連絡ください。



＜都会の生ごみが野菜となって循環！！＞

江東区の生ごみ減量モニター事業（2012～2014年）でダンボールコンポストの講師をとして大変お世話になった中野区の貞弘優子さんが、仲間と一緒に、有機・無農薬栽培をめざして、2017年秋に埼玉県日高市に生ごみ堆肥を使った畑を開設されました。

「生ごみを土に還し野菜を育て、食する」という循環型農業の形を理想として「ぐるぐる畑」と命名し、中野産の「生ごみ」が日高市の畑で野菜になって「帰ってくる＝還ってくる」という活動をされています。

いち市の名前は「ぐるぐるマルシェ」といい、毎週土曜日の朝早くに収穫した野菜たちをそのまま軽トラに積んで日高市から直送し、中野で販売しているとのこと。

ダンボールコンポストの普及活動だけでなく、人口の多い都会で生ごみで野菜を育てて循環させるという、まるで夢のような活動を開始されたことに、本当に驚きました。

きっと様々なご苦労があったのだでしょうね。いつか、畑を見学させていただきたいと思っています。



＜LFCコンポストを使ってみました＞

お宝通信23号で紹介した「LFCコンポスト」の袋無料キャンペーンを利用し、実際に使ってみました。4/9～8/9の4か月間、2人家族の生ごみを入れて堆肥にすることが出来ました。やってみての感想は、おしゃれでどこでも簡単に移動が可能なんです。これなら若い方や、少ない生ごみの方にはやってみたいと思うような魅力があります。

難点は、中の油引き紙袋が1カ月程度で破けてしまうことですが、新聞回収袋で代用して投入期間を4カ月間に延ばせました。途中、雨の多い時にはコバエの発生が多く閉口しましたが、彼らの寝ている夜に生ごみを投入するといいいアドバイスされ、コバエもやっと治まってくれました。また、かき混ぜるには段ボールの方がやりやすく、普通の主婦にとっては段ボールでも十分かなと思いました。

できた堆肥は「循環野菜の交換会&堆肥相談会 in 新宿」に参加して、バジルペーストと交換してきました。アドバイザーの方と様々な相談&交流をしてきましたが、コロナ自粛でガーデニングや家庭菜園がブームとなり、取り組む方が急激に増えた（特に30～40代）そうです。それにしても、福岡の団体がこの事業のために東京まで出向いてくるパワーに脱帽です。暮らしと土づくりをつなげ「半径2キロでの循環」を目指して様々な活動をしている循環生活研究所から派生してできた法人の方々です。（伊藤）

